

取材

365日24時間、世界中で記者が奮闘

日本はもちろん世界各地にいる記者が、読者に伝えるべき情報を毎日取材しています。取材するのは大きな事件・事故から身近な街の話題、さらに生活に役立つ情報までさまざま。取材した

記事は写真とともに本社に送られてきます。送られてくる原稿は、1日平均3300件以上。写真は約1700枚に及びます。集まった膨大な原稿は、データとしてシステムに登録されます。



編集

編集部門の会議で載せる記事を決定

集まった記事や写真データのなかから、編集部門がどの記事をどの紙面に載せるかを決めていきます。新聞にはその日のトップニュースを載せる1面のほか、政治・経済・社会・地方・

海外・スポーツ・文化などさまざまな面があります。社会的な影響の大きさや読者の関心の高さ、旬な話題なども判断基準にしながら、掲載記事を決めていきます。



編集の様子を動画で Check ▶▶▶

組版

読みやすく魅力的な紙面にレイアウト

各記事のニュースとしての価値を判断しながら、紙面に扱う大きさや位置を決め、見出しを付けたり写真・図を使ったりしながら紙面をレイアウトしていきます。特に記事の配置や見出し

は読者がどの記事から読むのかを決める判断材料になるので、正しく、かつ関心を持ってもらえるような工夫がされます。読みやすさ・分かりやすさも大切な要素です。



組版の様子を動画で Check ▶▶▶

送稿

出来上がった紙面データを各工場に送信

組版(レイアウト)した紙面データを、全国15カ所のサテライト印刷工場に送信します。ときには、深夜になって大きなニュースが飛び込んでくることもあります。緊急事態には、急ぎよ紙

面を作り直すこともあります。どんなに緊急でも、正確な情報を読者に伝えるのが新聞の使命。混乱が発生しないよう、いくつものモニターで各工場の状態を把握しています。



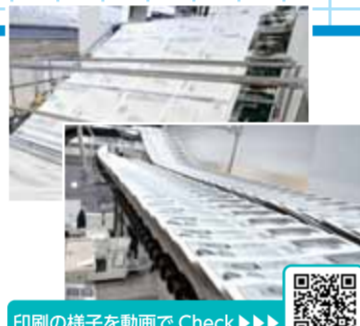
送稿の様子を動画で Check ▶▶▶

印刷

大量の部数を短時間に高速印刷

紙面データは感光性のアルミ板にレーザーで焼き付けられ、印刷のもとになる刷版が作られます。次に、このアルミ板(刷版)を、大量印刷が可能な高速回転機にセットして新聞を印刷します。

回転機には1時間に約15万部刷る能力を持つものもあります。印刷に際しては、題字や写真の色の調整にも細心の注意が必要となっています。



印刷の様子を動画で Check ▶▶▶

輸送

各販売店まで正確&スピーディに輸送

トラックの荷台へと積み込まれます。輸送先は全国に約6400店ある新聞販売店。新聞発送システムが、6400店それぞれの部数や輸送ルートを確認し、間違いのない輸送に貢献しています。

トラックの荷台へと積み込まれます。輸送先は全国に約6400店ある新聞販売店。新聞発送システムが、6400店それぞれの部数や輸送ルートを確認し、間違いのない輸送に貢献しています。



輸送の様子を動画で Check ▶▶▶

配達

今日も皆さんのお宅へ新聞をお届け

新聞販売店には、印刷工場から決められた時間どおりに新聞が届きます。販売店スタッフは届いた新聞に折り込み広告を入れ、エリアごとに

仕分けし、配達します。こうしていつものように新聞が届き、今、この記事を読んでいるのです。



MOVIE 公開中

二次元バーコードがあるところは現場の様子を動画で見ることができます。

WEBでも特設サイトを公開中です。http://mainichi.jp/sp/shinbun/

そうだったのか!

この新聞 どうやってできているの?

二次元バーコード & WEBでチェック!

政治・経済や、社会・地方・海外・スポーツ・文化などに関する編集部門があります。



編集局



海外支局

世界のニュースを伝えるため26の海外支局があります。



地方支局

全国には101の総局・支局と、265の通信部・駐在があります。

世界各国のさまざまな動きをとらえ、真実を伝える新聞。最新のニュースにあふれた紙面は、日々どのようにして私たちの手元に届けられているのでしょうか。私たち毎日新聞を例に、そのポイントを探ってみました。

日々の新聞づくりを支えているもの。一つは、今も昔も変わらない報道という仕事への情熱。そしてもう一つ、現代の新聞発行に欠かせない「マンパワー」。

毎日、世界中から集まる二万件を超える記事や情報(通信社からの情報を含む)



菅直人首相取材する記者たち

現場の記者たちは、新聞記事の基となる出来事を世界中で取材しています。毎日新聞の記者たちは、1日平均3300件の記事、1日平均約1700枚の写真を約1700枚の素材を管理するシステムに集められて紙面づくりの材料となります。

集まった材料は、編集部門によって選ばれ、レイアウトされ、紙面に加工されていきます。そう遠くない昔、電話口で記者が

読み上げる原稿を速記していた時代もありました。現在の新聞時代もありません。現在の新聞時代もありません。現在の新聞時代もありません。

素材を管理するシステムに原稿や画像が集まると、編集部門の会議で読者に伝えるべきニュースが選ばれ、紙面が編集・制作されていきます。記事の内容はもちろん、見出しやレイアウトによって読者の関心度が違ってきます。編集部門の腕の見せ所です。

紙面づくりは印刷の締め切り時間ぎりぎりまで行われ、出来上がった紙面データが全国15カ所のサテライト印刷工場へ送信されます。印刷時間が少しでも遅れると、朝玄関にまだ新聞が届いていないという事態を引き起こします。このプロセスもスピードと信頼性が欠かせません。

次はいよいよ印刷工程です。新聞の印刷といえば回転機。現在は、1時間に約15万部も刷ることが可能な高速回転機も活躍しています。

毎日新聞社では、従来東京、

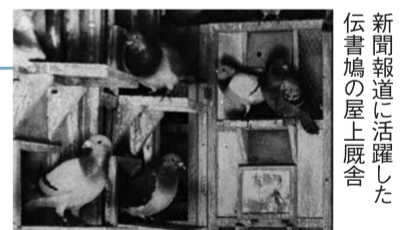
大阪など各本支社で独自に管理していた部数・輸送情報を、総合データベースとして一元化。万が一、どこかの印刷工場トラブルが発生しても、全国どの工場でも対応することができ、このように、最新のコンピュータ技術は、効率化、利便性、信頼性の飛躍的な向上に大きく貢献しています。

印刷された新聞は、迅速・確実に販売店に輸送されます。ここでも、各販売店の部数や輸送ルートを確認し、的確な指示を出しているのは最新の技術を使ったシステムです。私たちのマンパワーとITのシステムが融合することにより、効率的でミスのない配達をすることができます。

こうした流れを正確でスピーディにこなすことにより、最新のニュースを載せた新聞が届けることができます。

技術革新を続ける新聞づくり

かつては新聞社の屋上から伝書鳩を飛ばして原稿を運んでいました。ファクスが登場する前は、紙テープに記事をパンチして電送する機械を使ったり、印刷も鉛でできた活字を一字ずつつろって原版を作っていた時代がありました。出来上がった新聞を、電車で各地方まで運ぶため、プロ野球の結果が紙面に間に合わない地域もありました。毎日新聞の140年の歴史は新聞づくりのための技術革新の歴史でもあります。



新聞報道に活躍した伝書鳩の屋上厩舎

TOSHIBA Leading Innovation >>>

今、あなたが手にしているこの新聞。東芝ソリューションの技術が生きています。

毎日新聞の紙面は、新聞社に関わる多くの人たちのチカラと、最先端のIT技術で支えられています。記事の素材管理から発送システム、そして販売管理システムまで、東芝ソリューションは、紙面づくりからお届けまで、しっかりとサポートしています。多様化するメディアへの対応には、次世代システムがその力を発揮します。読者の皆さまに、最新の情報を。

ワンソース・マルチユースのさらなる進化に期待大です。



毎日新聞社制作技術局 室 裕紀

毎日新聞では、東芝ソリューションのシステムを複数導入しています。困ったときや特別な運用があったときにも対応が迅速・丁寧なので、正確さやスピードが求められる新聞社としていまや欠かすことができません。

近年導入したシステムでは、業務プロセスを整理することでコストが削減でき、また、売上アップのための効率的な判断にもつながっています。現在も、より良い新聞づくりに向けた次世代システムを協力して開発しています。



次世代メディア マネージメントシステム

「メディアテクノロジーの進化」や「読者ニーズの多様化によるビジネスモデル変化」に柔軟に対応するメディアマネジメントソリューション「DynamicCMS」。時代の変化を見据えたメディアマネジメントソリューションとして、新聞情報の価値をさらに高めながら、より柔軟に、より迅速に、読者の皆さまに情報を提供できる仕組み作りをサポートします。